魂のささやきより

母より

この世は僅か夢の世でございます。　何卒本気になりて人様にお聞かせ下さい。　口で言うて聞かしても、お念仏が浮かばぬ様では面白くありませんから、又御座の後に残った人に、どうか、どうお聞きなされたか、と尋ねて上げて世間の話に移らぬ様にして下さい。　ある同行が、如何にお説教が上手と人にほめられても、お念仏も浮かばぬ、お説教がすめば直ぐに世の話をしたり、私の役目はもうすんだと申す様な素振りをしたりするようではどうも面白くありませんと　申されましたが、お念仏が少し数が多く出れば称名正因の異安心じゃと言われる人もあるが、出ないのは貰い物がたりないからです。　それから安心したのがお領解だの、疑い晴れたのがご信心だのと、型ばかり教える人がありますが、あなたは私にどうお聞かせ下さいます。　十八願のおゆわれを手短にお聞かせ下さい。

親切な親ではないか。　子供を仏にしよう永遠に生かそうの一念から、身の衰えるも忘れて働き、而も信仰も一匹の馬がくるえば千匹の馬がくるう様に、導く針が直しく行かねば続く同行の糸も曲がる様に、真の親に逢えよ真の親に逢えよ自信教人信じゃで、真実信心には必ず名号を具するのじゃぞ、名号の出ない様なものは本真者ではないぞと、誡めてくれる大善知識が三千世界に何処にあろうか。　私を絶対の親に逢わしてくれた親こそ、阿弥陀様の化現じゃ、私の輪転無窮を哀れんで、親子の縁を結んで眼を醒さしてくれた権化の人じゃ、と仰がずにいられない。　合掌せずにいられない。　第十八願の味を、手短く味わいますれば、「救われた嬉しさには、称えずにはいられません」

右返事

先日はお手紙有りがとうございました。お変わりなく皆様がご辛抱なさいますので、安心致しました。　八幡の方は不幸続きで大積の祖母さんの百カ日の後に芳子が、又百カ日位で佐賀の祖母さんが死なれましたが、之が人生でございましょう。誰が早く行くやら、出ていくまでの命ですから、根限り仏法の為に働いて置かねばなりません。何時も何時も御親切に私の信心はどうであろうかとご心配下さる、有難うございます。十八願の味を一口で言えと申されましたが、「救われた嬉しさには、称えずにはいられません」とお答え申します。

お母様、お念仏は私の往生の決まった証拠では有りますが、親の心即ち信心が届くまでは、唯になったのではありません。　御文章にも「口にただ称名念仏ばかりを称ふる人はおほようなり。それはおほきにおぼつかなき次第なり」ともあり、親鸞聖人様は「真実信心には必ず名号を具す。名号には必ずしも願力の信心を具せざるなり」と仰せられてありますが、なんでもえー念仏せよ、そのうちには何とかなろうと言う念仏は、二十願の念仏でおぼつかない、ひょっとの出て来る念仏であります。　名号には必ずしも、願力の信心を具せざるなりで、称えてはいるが、唯の味を知らないで、自分で助かると思うているのです。　うわつらだけ思わして貰っている人で、五劫思惟の本願は私一人の為じゃと言う、決定心はその人には有りません。

而し罪悪のかたまり、不実一杯の私、真実になり得ない私に、かかり果てて下さる如来様の絶対の不思議に眼の覚めた時、唯の唯とは私の罪悪の有りったけかと驚いた信の一念に、仏凡一体、機法一体の味を得たのを仏智満入とも、信心歓喜とも言いますので、真実信心には必ず名号を具する、仏のお手元（名号）が私に届く（信心）が口に出る（称名）名号のままが信心、信心のままが称名で、真実功徳大宝海の名号の私の胸に満ちて大信海となり、弥陀の廻向の御名なれば功徳は十方に満ち給うと、称名が出て行くのですから、救われた嬉しさ（信心）には、称えずには（称名）いられませんと、お答えするのです。

八幡にも　三十年五十年と聞いてはいるが、「この様ではひょっと」の同行や、薄紙一重が晴れ切れんで困っている同行や、

あの人の様に喜べないと言う同行や、はっきりしそうなものと言う同行や、色々大病をかかえた同行が沢山居られます。

機を見るな手間がかかると教えられる善知識も有るが、機を見れば手間がかかり見ねば早いと言われるが、おかしな本願があればあるもの、見れば遅い見ずにいれば早いと言うのは、一生懸命になれば遅いが、知らん顔していれば早いというのと同じ事、その様なごまかしで参る様なお浄土ではありません。今度の往生は御教化でぬすくって、そう思って参るお慈悲ではなく実際問題です。心の底から唯にならねば真実に救われたのではありません。機を見ずに頂いたと思う同行は五十年聞いても、気持の悪い薄紙一重ひょっと、あれでもなあ、がのきませんが、照らさるる機を見て進んだ者は、この不実一杯の機にかかり果てた本願じゃと、真剣に進みますから早いのになると只の一席位で、踊り舞いして唯の味を体験致します。その時に十八願の味を聞き開いて、救われた嬉しさには称えずにはいられませんと、飛び立って仏凡一体の妙味を得るのであります。凡夫は何も知らんでもよい、もやもやの起こるなりが唯じゃなど教える知識もありますが、その人はまだ自分が晴れていないので、感じたのを信心と思っている人です。痴無明や疑無明の区別がはっきり判らないから水際を鮮やかに体得出来ないのです。

親の誠が届いて晴れなくて何時晴れる時が有りますか。聞き得た一念に疑いの曇りは、さらりと晴れ渡り、重荷おろした味、唯じゃ唯じゃと踊ります。親の若不生者の誓を貰った人なら此世から体徳を言えば正定聚の菩薩、決定必定、極楽のあととりの自覚がなくてどうします。

一、至心信楽欲生我国とある信楽は、疑い晴れて曇りのない、ひょっとのない、疑蓋雑わる事なしの、明らかな、親と一体にとけあった味なのです。

二、信心歓喜、私の儘が南無阿弥陀仏とは、あらあら心得易い安心や、行き易い浄土や、私の行く処は皆お浄土と言う、広い世界に飛び出した味。

三、明信仏智とは、大経のお言葉で明らかに仏智を信ずるとは、罪悪に繋がれ、動かれぬ私にかかり果てた本願なら、私が参らで誰が参るのか。　五劫思惟の本願は私一人の為じゃ。私は正定聚不退に住さして頂いている。仏智の全体が私の妄念に満入した時で、明らかに届くのじゃで闇は一寸も有りません。

四、彼仏名号　歓喜踊躍　乃至一念　とは名号を聞き開いた時は、手の舞い足の踏む処を知らず、私が弥陀やら、弥陀が私やらの　信の一念の処で、不可称　不可説不可思議の味わい、苦抜けのした世界。

五、曇鸞大師は、弥陀の名号は衆生の一切の無明の闇を破し、衆生の一切の志願を満足せしめ給うと説いていらるるが、うす紙や、ひょっとや、「とは言うても」の残っている間は、真実の如来に救済されたのではありません。　手を挙げても脚を動かしても、私の儘が南無阿弥陀仏で、疑いの雲霧は晴れて往生の一大事を解決さして頂いた喜びは筆や口では顕されませんから、聖人様は「心も言葉もたえたれば不可思議尊を帰命せよ」と申されたのです。

六、善導様は、深心を説明して深く信ずるの心なりと言い、廻向発願を釈して此の心深信せること由し金剛の若し。

七、正信偈には、行者正しく金剛心を受けともあり。

八、ああ弘誓の強縁は多生にも遇ひ難く真実の浄信は億劫にも得難し、浄かな信心は汚れはなく、ひょっとのない事。

九、他力至極の金剛心、一乗無上の真実信海なり。（愚禿鈔）

十、たちどころに他力摂生の旨趣を受得せり。（御伝鈔）

十一、大悲の願船に乗じて、光明の広海に浮かびぬれば、とは名号と一体になり苦抜けがして、何時もほやほやしている姿なのです。

十二、今こそ明らかにしられたり。　とも色々お言葉は有りますが、明らかなお慈悲を明らかに貰うのです。　暗い儘と教える人は晴れたのではありません。　親が承知じゃからお前は知らんでもよいと教える人は、まだ親の味が本当に判らない人で

す。十方に満ちた大慈悲の親の一人子にさして貰い、今が正定聚の菩薩にさして貰った嬉しさには喜ばずにはいられません。

つづまる処、私の儘が南無阿弥陀仏、身も心も口も今は如来と一体じゃ。　此の御恩を如何にして報じようか。あらあら唯とはこの儘じゃと踊り舞い致します。広大難思の慶心とは深さや広さの知れない喜びです。　此の身にさして下さったお母様は、善知識、仏様の化現じゃ。御恩の程を忘るる事は出来ません。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

別紙は私の定例布教の日程です。毎日毎夜活動していますが、救われた嬉しさに比ぶれば、一寸も御恩報謝は出来ません。身の続く限り倒るる迄進みます。

兄様曽我の兄弟の話は忘れますまい。両親の名を挙げるのも二人です。名を汚すのも兄弟です。　兄は物質界に弟は精神界に何れが活躍するかと二人で涙流して誓った事は今猶脳裡に刻み付けられています。南無阿弥陀仏。

定例布教日程

一日	昼夜		
二日	昼夜	寺町一丁目	敬行寺
三日	昼夜		
五日	昼	中本町三丁目	谷口家
八日		東鉄町四丁目	末森家
十日	昼夜	通町六丁目	加米家

十二日		白川町一丁目	疋田家
十三日		新町十丁目	旭ガラス会
十四日	昼夜	新町十丁目	加治家
十五日	昼夜	新町十丁目	加治家
十六日	昼夜	新町十丁目	加治家
十八日	昼	寺町一丁目	敬行寺
十八日		岡田町一丁目	中村家
十九日		中央区	不定
二十日		諏訪町三丁目	些上家
廿一日		緑町三丁目	新田家
廿二日		岡田町三丁目	池田家
廿三日		北本町六丁目	原医院
廿五日		六条五丁目	松本家
廿六日	昼夜	門司市外	浄光寺
廿七日	昼夜	門司市外	浄光寺
廿八日	昼夜	門司市外	浄光寺
廿九日		春野町	田村家
三十日		東神願寺	知古島家

定例以外の日は、毎日臨時で参りますから、一日も休みは有りません。私は法話も説教も下手ですが、信仰に悩む求道者に話しますのは御飯より好きで、法味楽は底の知れない楽しみで、一切の物を忘れてしまいます。何卒御身御大切に遊ばして早くお帰り下さい。皆々様によろしく。合掌。